

## CONTENTS

書道パフォーマンス「山静川清」(富山商業高校) …	1
砂防フェア2024の開催について …	2
土砂災害防止に関する「絵画・作文」入賞者決定 …	2
おらっちゃんの砂防 砺波市の砂防事業について …	3
土木センター、事務所紹介 (新川土木センター入善土木事務所) …	3
後進に告ぐ …	4
令和6年度砂防関係事業の概要 …	5
令和6年能登半島地震への対応 …	5
土砂災害警戒情報の暫定基準への引き下げ …	6
出水期前の土砂災害に係る 防災関係機関との連携 …	6
全国治水砂防協会 通常総会の開催について …	6
砂防学会研究発表会及び インタープリバント2024への参加 …	7
全国の集いの開催及び 砂防ボランティア功労者表彰について …	7
立山カルデラ砂防博物館ニュース …	8

## 写真の解説

### 「山静川清 (やましずかにしてかわきよし)」 (富山商業高校書道部)

この言葉は、砂防工事により山が静まり、川の流りが澄んだものになるという意味です。この文字は、井上孝哉第16代富山県知事が、大正6年7月に立山カルデラの砂防工事を視察した際、言葉に表せない荒廃の有様に驚愕し、無言の語りを投げかける巨岩に胸を衝かれて、あるべき立山カルデラと常願寺川の理想像を巨岩に刻んだものになります。残念ながら文字が刻まれた巨岩は、洪水で流され、いまも行方不明です。

上記写真は、令和6年6月8日(土)に、総曲輪グランドプラザにて開催し「砂防フェア2024」で披露された、富山商業高校書道部の書道パフォーマンスの作品です。現在、富山県防災危機管理センター1階(富山市新総曲輪1番7号)に展示していますのでご覧ください。

# 土砂災害防止月間イベント「砂防フェア2024」を開催

県では、土砂災害から人命を守るため「土砂災害防止月間」と定められた6月に国土交通省の立山砂防事務所、黒部河川事務所、神通川水系砂防事務所、富山市、立山カルデラ砂防博物館とともに、県民に土砂災害に対する防災意識を高めていただくための啓発活動として砂防フェアを実施しています。令和6年度は、総曲輪グランドプラザにおいて6月8日（土）に行いました。

藤木獅子舞保存会による迫力ある獅子舞や富山商業高校書道部による勇壮な書道パフォーマンス、立山砂防女性サロンの会による立山砂防の歴史に関する絵本読み聞かせ、立山カルデラ砂防博物館学芸員による南極地域観測隊の活動内容の報告（サイエンストーク）、工作・実験コーナーなど、楽しく学べるイベントに多くの方が足をとめフェアに会場いただきました。



藤木獅子舞（藤木獅子舞保存会）



書道パフォーマンス（富山商業高校）



絵本読み聞かせ（立山砂防女性サロンの会）



サイエンストーク（立山カルデラ砂防博物館）



工作・実験コーナー

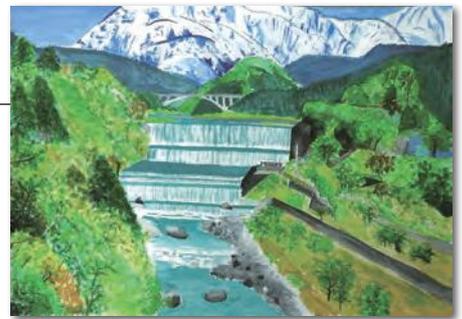


模型実験コーナー

## 令和5年度 土砂災害防止に関する作品募集 入賞者決定

土砂災害に対する理解と関心を深めるため、土砂災害防止月間（令和5年6月1日～6月30日）の行事の一環として、県内の小・中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集したところ、計74点（絵画43点、作文31点）のご応募をいただきありがとうございました。ご応募いただいた作品を審査した結果、下記10名のみなさんが受賞されました。

令和6年度も同様に募集しておりますので（令和6年6月1日～9月15日）、たくさんの作品をお待ちしております。



国土交通省表彰  
優秀賞（事務次官賞）  
入善町立入善中学校  
2年 上原 沙弥夏

### 1 国土交通省表彰

（敬称略 学校・学年は応募時）

#### 1) 優秀賞（事務次官賞）

絵画（中学生）の部：入善町立入善中学校 2年 上原 沙弥夏  
作文（小学生）の部：富山市立八尾中学校 2年 京 優希

### 2 富山県表彰

#### 1) 富山県土木部長賞

絵画（小学生）の部：南砺市立井波小学校 6年 澤山 叶芽  
絵画（中学生）の部：魚津市立東部中学校 2年 四ツ田 麻央  
作文（小学生）の部：砺波市立砺波北部小学校 5年 黒田 唯心  
作文（中学生）の部：富山市立八尾中学校 3年 今枝 優香

#### 2) 富山県治水砂防協会会長賞

絵画（小学生）の部：小矢部市立石動小学校 1年 坂本 圭  
絵画（中学生）の部：魚津市立東部中学校 2年 稲葉穂乃香  
作文（小学生）の部：氷見市立比美乃江小学校 5年 小堀 陽菜  
作文（中学生）の部：富山市立八尾中学校 1年 小向 瑠璃



南砺市立井波小学校  
6年 澤山 叶芽



魚津市立東部中学校  
2年 四ツ田 麻央

富山県表彰

富山県土木部長賞

富山県表彰

富山県治水砂防協会会長賞



小矢部市立石動小学校  
1年 坂本 圭



魚津市立東部中学校  
2年 稲葉 穂乃香



## 砺波市の砂防事業について

砺波市建設水道部土木課 瀧山 茂



砺波市は、富山県西部の砺波平野の中央に位置し、一級河川庄川によって形成された勾配の緩やかな扇状地と、牛嶽から北に向かって連なる鉢伏山を含む庄東山地や芹谷野段丘から成り立っており、土砂災害警戒区域が156箇所、そのうち特別警戒区域は107箇所指定されています。

昨年7月には線状降水帯が発生し、12日夜遅くから13日未明にかけて記録的な大雨となり、高齢者等の避難や住宅の浸水等の影響がありました。市道の被害も多く、20カ所で公共土木施設災害復旧事業の認定を受け、約1年をかけ概ね復旧工事を終えたところです。

土砂災害防止工事としては、庄川町庄地区において県の補助制度（富山県急傾斜地崩壊対策事業補助金）を活用し、平成23年度から法面工を実施しています。

ソフト対策としては、平成24年度に土砂災害警戒区域や避難所などを明示した土砂災害ハザードマップを作成し市内全戸を対象に配布しました。令和2年度には洪水ハザードマップやため池ハザードマップの情報を加え、要配慮者利用施設や過去に発生した土砂災害箇所を追加で表示するなど

の改定を行っています。

災害時の連絡体制等について、一部の地域で地域ICTプラットフォームサービス「結ネット」を活用し、地域が主体となって災害時における情報の一斉発信や安否確認を行っています。また、操作に不慣れな高齢者に対しては定期的に使用方法の講習会や模擬訓練を行い災害に強い地域づくりに取り組んでいます。

今後もハード・ソフトの両面から土砂災害の防止に努めていきたいと考えています。



庄(1)地区急傾斜地崩壊対策工事



土砂災害ハザードマップ

## 土木センター・事務所紹介 新川土木センター入善土木事務所の砂防事業

新川土木センター入善土木事務所は、県東部の黒部市、入善町、朝日町の1市2町を所管しており、黒部川などの急流河川によって形成された扇状地から山岳地域に至る高低差の大きいダイナミックな地形を有しています。管内の面積は約724km<sup>2</sup>で県全体の約17%、人口は約7万人で県全体の約7%になります。

管内には、土砂災害警戒区域が412箇所（土石流151箇所、地すべり59箇所、急傾斜202箇所）あり、県全体の約8%を占めています。

現在、砂防改良7箇所、地すべり対策1箇所、急傾斜地崩壊対策2箇所のほか、メンテナンス事業11箇所です業を実施しています。

このうち、片貝川水系尾山大谷川砂防改良事業では、平成7年度から流路工の整備を進め



尾山大谷川砂防改良事業 流路工

ており、全体計画3,200mのうち平成27年10月にI期区間（2,200m）の整備が完了しています。II期区間（1,000m）についても、残り約50mの整備が残るのみになり、いよいよ事業完了が見えてきました。

また、令和5年度には平成26年度から進めてきた、黒部川水系下立沢の砂防改良事業が砂防堰堤1基、溪流保全工80mの整備を終え無事完了しました。

近年は、豪雨等に起因する土砂災害が頻発・激甚化していることから、引き続き、地域住民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト両面から土砂災害防止対策を推進していきたいと考えています。



下立沢砂防改良事業 堰堤工、溪流保全工



## 1 プロローグ

令和6年1月1日夕刻。けたたましい緊急地震速報の音に続き、今まで経験したことのない激しい揺れに襲われた。能登半島地震である。県内でも家屋の倒壊や液状化、道路の崩落や地すべりなど多くの災害が発生した。この度の地震で被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、復旧復興に向けご尽力されている方々に深く敬意を表したい。

さて、後進に告ぐである。特段貢献もしていないが、細切れで長く砂防課に在籍（3回、計10年）していたことから、最低2回連続で寄稿せよとの依頼である。砂防課の資料を拝見すると初回(H17. 1)の寄稿者は、当協会の大先輩であった奥村久成氏である。砂防課に在籍中、砂防ボランティアとして微に入り細に入り大変お世話になり、ご指導いただいた。奥村氏をはじめ先輩方の足元にも及ばないが折角頂戴した機会である。砂防課に在籍中に砂防ボランティア協会の先輩方や上司、同僚、事務所の皆さんと一緒に取り組んだ仕事の思い出と心に残った言葉をお伝えできればと思う。

## 2 エピソード1(技師・主任時代)

### ① 国見の地すべりとサクランボ

初めての砂防課勤務は平成3年度から6年度までの4年間。1年目は地すべり係に配属された。最初の仕事は、前年度に事業採択された氷見市国見地区災害関連緊急地すべり対策事業を事故線越することなく3年度中に完了させることであった。引継では、地すべり対策で斜面末端部に90万㎡の抑え盛土を実施するにあたり、旧河川を付替える必要があるが、最下流で計画した井桁の土留堰堤の構造について本省砂防部の了解が得られず、現場が止まっているとのことであった。異動の挨拶もそこそこ単身上京、本省へと向かった。

本省の担当者に挨拶後、廊下で順番を待ち、ようやく本丸の課長補佐の所に辿り着く。開口一番「君一人で来たの?」。30代に成り立ての血気盛んな頃、一瞬むっときたが、「はい!一人です!」と元気よく答えた。狭い部屋の中で机の上に大きな図面を広げ、浅学非才の身ながら、井桁の土留堰堤の構造や基礎地盤の安全性、地下水位への影響などについて精一杯説明した。補佐は笑い顔だが厳しい方でなかなか納得されず、小一時間、繰り返し説明したが膠着状態が続いた。その時である、女性職員の方が皿に盛られたサクランボを持ってこられた。補佐は一房口に入れると更に口角が上がり、「君も食べる?」と勧められた。甘酸っぱいサクランボを食べながら、和やかに再度説明を行い、ようやく協議簿に了解のサインをいただいた。

国見地区の地すべり対策工事が無事完了したのは、サクランボと「後は富山県に任せたらね!」と大変重たい言葉とともに了解いただいた担当補佐、そして、工程調整や地元調整に尽力された氷見土木事務所の皆さんのおかげだと思っている。



国見地すべり抑え盛土工の全景

数年後、偶然、日曜屋のNHKのど自慢でヘルメットをかぶり長靴をはいて熱唱する懐かしいお顔を拝見した。相変わらずの笑い顔であった。

### ② 地すべり対策 ダイジェスト版

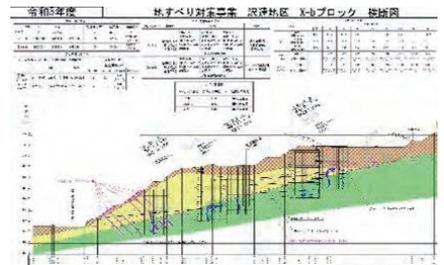
本省での国見地区の事業説明を終え、一つ気付きがあった。本省の執務室はとにかく狭く、机の上に図面を広げて説明することさえ非常に大変であった。富山県は地すべり対策事業の箇所数が数十ヶ所と多く、個々の状況も様々で説明資料も膨大であった。今後のためにも説明資料や方法を工夫する必要性を強く感じた。

その当時、県内の地すべり対策事業の事務所とのヒアリングには地質コンサルタントの担当者が同席して説明を受けることが慣例となっていた。このため、小生も含め県の担当者が地すべりに対する知識や理解を深め、自らの言葉で分かりやすく説明が出来るよう、三者で協議し、報告書のエキスをとりまとめたダイジェスト版を新たに作成することにした。

まずは、地すべりブロック計画横断面図に必要な情報を集約。柱状図や地下水位、地すべり面の深度や決定根拠、安全率の推移等を図表にして断面図に記載。あとは滑落崖等の写真を貼った平面図、必要に応じて、コア写真や歪計の観測データなどをB4版の冊子にとりまとめた。当時、地すべり対策は、梅雨期の地下水位や変状を踏まえ、当年度の実施内容を最終決定していた。この夏の本省説明ではダイジェスト版が大変役立つ記憶がある。

その後、県内のヒアリングは事務所の担当者だけで説明するようになったことは、大変喜ばしいことである。

現在、報告書のダイジェスト版はA3版となり、業務委託の特記仕様書にも成果品として明示されている。地すべりの知識や理解を深めるツールとして活用してもらいたい。



ダイジェスト版(ブロック横断面図)

### ③ 治水上砂防のため

2年目(平成4年度)、課内異動で砂防係に配置換えになった。その頃の砂防事業は治水上砂防のために大きな流域を対象とする水系砂防と人家近くの比較的小さな溪流を対象とする地先砂防の大きく2つに分類されていた。今で言う、土砂・洪水氾濫対策と土石流対策である。当時の富山県の砂防事業の主流は、早月川や片貝川、井田川の上流域などで実施する水系砂防であった。

特に常願寺川支川の雑穀谷は大日平に源を発する平均河床勾配1/5の急流荒廃河川であり、昭和20年代から砂防堰堤等の整備が進められていた。昭和44年の集中豪雨では複数の堰堤が被災。その後も宮々と堰堤等の整備が進められたが、山腹崩壊や土砂流出が激しく、下流域を土砂災害から守るため、最上流部に基幹堰堤となる12号砂防堰堤を整備することとなった。

まずは建設予定地の現地調査である。電力会社の先導で称名川第2発電所の導水管沿いの管理用階段を高差で約200m登り、そこから勾配が緩くなった導水管の中を懐中電灯片手に約1km歩いた。概ね1時間、ようやく雑穀谷の建設予定地上流に辿り着いた。標高は約1000m。軽いめまいを感じた。上流部の河床には巨石や多くの土砂が堆積し、斜面も大きく崩れ、正しく賽の河原であった。荒廃状況を目の当たりにし、整備の必要性を改めて痛感した。

ほどなくして、学識経験者や砂防の専門家等からなる技術検討委員会が立ち上がり、堰堤の規模や構造的な検討が開始された。最終的には、堤高35m、貯砂量24万㎡、揚圧力の低減のためカーテングラウトも施工するなど、県営では最大規模の砂防堰堤として整備することとなった。また、現地は国立公園内に位置し、地形も急峻なことから約1kmに及び工事用道路を設置することは困難であった。資機材や人員の運搬が施工上の大きな課題であったが、立山土木事務所の発案により、貨物用には既存の循環索道を改良し、人送用にはロープウェイを新設することとした。本省の了解も得られ、本体着工に向けた準備がようやく整い始めた。



雑穀谷上流部の崩壊状況



人送用のロープウェイ

## 3 エピローグ1

砂防課での4年目が過ぎようとした平成7年1月、阪神・淡路大震災が発生した。2週間後に土木部の調査団の一員として現地に入り、土砂災害をはじめとした地震災害の恐ろしさを目の当たりにした。復旧復興のお手伝いをする間もなく、同年4月の異動で後任の方にバトンを渡し、後ろ髪を引かれる思いで砂防課を後にした。(続く)

# 令和6年度 富山県砂防関係事業の概要

## 令和6年度砂防関係事業費

令和6年度の富山県砂防関係事業当初予算は、前年度より5,600万円増(+0.9%)となる総額64億1,500万円となりました。

なお、国土強靱化のための5か年加速化対策や労務資材価格の高騰対策として、令和5年度補正予算を合わせた16ヶ月予算では、総額76億900万円を確保し、県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策を計画的・重点的に推進してまいります。

区分	R6 当初予算(千円)	R5 当初予算(千円)	率 R6/R5	備考
一般公共事業 (災害含む)	4,267,000	4,267,000	100.0%	補助事業 交付金事業
主要県単事業	429,000	442,000	97.1%	砂防改良、砂防維持修繕 小規模急傾斜補助
直轄砂防事業負担金	1,719,000	1,650,000		常願寺川水系(立山砂防)、黒部川水系、神通川水系直轄砂防
合計 (直轄負担金除く)	6,415,000 (4,696,000)	6,359,000 (4,709,000)	100.9% (99.7%)	

## 県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策の推進

### (1) 砂防総合交付金事業及び砂防関係施設整備事業による土砂災害防止施設の整備

砂防事業	小矢部川水系池川【南砺市】等 49箇所
地すべり対策事業	胡桃地区【氷見市】等 18箇所
急傾斜地崩壊対策事業	本江(2)地区【滑川市】等 13箇所
雪崩対策事業	上笹原清水地区【富山市】 1箇所



砂防事業 小矢部川水系五十里道重



急傾斜地崩壊対策事業 横枕地区

### (2) 砂防施設の老朽化対策

富山県砂防関係施設長寿命化計画に基づき、補助事業の「砂防メンテナンス事業」を活用し計画的・集中的に老朽化対策を推進

### (3) 円滑な警戒避難のための支援

#### 土砂災害危険箇所の周知

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進  
市町村が実施する土砂災害ハザードマップ作製など警戒避難体制の整備について支援

#### 土砂災害情報の提供

警戒避難を支援する土砂災害警戒情報の充実

#### 土砂災害の警戒避難体制等の整備

要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援、防災講習会、防災訓練などによる防災リーダーの育成、住民の防災意識の向上



県内初の土石流後のアンカーネット工の設置(立山町中谷川)

## 立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取り組み

### ■Tateyama SABO国際的認知向上事業

世界遺産登録に向けて立山砂防の顕著な普遍的価値を世界に発信するため、国際防災学会インタープリバント(オーストリア)等で発表する。

### ■立山カルデラ砂防体験学習会

団体・個人コースを実施し、安政大災害やこれまでの防災の歴史や取り組みを、県民等に伝えるための啓発活動を行う。(今年度は、トロッコの軌道被害のため、バスコースのみの実施となります。)

## 令和6年能登半島地震への対応

1月1日に発生した令和6年能登半島地震により県内では最大震度5強を観測し、14箇所の土砂災害(地すべり3件、がけ崩れ11件)の発生が確認されました。地震による砂防施設の被災状況を把握するため、NPO法人富山県砂防ボランティア協会の支援、及び(一社)斜面防災対策技術協会との協定により揺れの大きかった地域を中心に概略調査を実施しました。

高岡市雨晴地区(写真)、氷見市惣領地区では、市の指定緊急避難場所が急傾斜地崩壊防止施設により保全され、地震時の避難所として住民に活用されました。

氷見市園地区では人家に隣接した斜面でがけ崩れが発生し、応急対応として二次災害防止に備えた大型土のう設置、斜面の亀裂発生箇所に対する計測機器(伸縮計、傾斜計)による監視システムを構築し、氷見市への情報提供を行いました。地震後の降雨による斜面の変動が確認されたこと、地域住民の自主避難に至ったことから、追加の対応として斜面に落ち残った土砂の排土作業をRCM工法(ロックワライミングマシン)にて実施しました。



砂防ボランティア協会による調査



道の駅雨晴(H14までに法枠+待受式擁壁工を設置)



氷見市園地区でのRCM工法による排土

## 能登半島地震に伴う土砂災害警戒情報の暫定基準への引き下げ

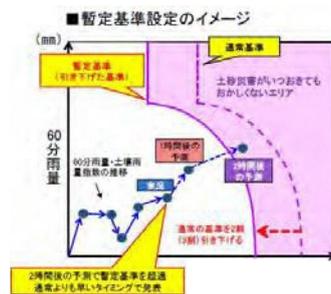
地震による強い揺れがあった地域では、揺れによって地盤が脆弱になり、降雨の際の土砂災害発生の危険性が通常より高まっていると考えられるため、土砂災害警戒情報の発表基準を通常より引き下げた暫定基準にて運用することとなっております。

県内では、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により震度5強を観測した、氷見市、高岡市、小矢部市、南砺市、射水市、富山市平地で現在、通常の8割に引き下げた暫定基準を適用しております。

通常時に比べて、警戒情報発表時の災害発生までのリードタイムが短くなっていると考えられますので、避難場所に避難ができない場合は、次善の策として、近隣の堅牢な建物への避難や屋内での避難を心がけてください。

### 避難場所に避難できない場合の「次善の策」

- ・ 近隣の堅牢な高い建物（鉄筋コンクリート造等）の高層階へ移動
- ・ 自宅外への避難に余裕がない場合や、既に自宅の外が危険な状況の場合、斜面と反対側の2階以上の部屋に避難



## 出水期前の土砂災害に係る防災関係機関との連携

令和6年5月9日に砂防事業担当者会議を開催し、市町村・土木センター・事務所職員など、58名に参加いただきました。会議では、例年行っている防災業務に係る説明に加え、富山地方気象台から「令和5年の土砂災害警戒情報の検証結果、令和6年5月下旬から開始する顕著な大雨に関する気象情報の新たな運用」についてのご講演、直轄砂防事務所から最近の砂防事業についてご紹介いただきました。



5/9 砂防事業担当者会議



6/11 情報伝達訓練

5月14日には県庁内の関係課を対象に、土砂災害のおそれがある箇所に立地する要配慮者利用施設についての情報共有等を行う、水害・土砂災害対策庁内連絡調整会議を実施しました。

6月11日には、県、気象台、市町村、消防本部等の関係機関合同で、土砂災害警戒情報発表時を想定した情報伝達訓練を実施しました。土砂災害警戒情報支援システムから各機関にFAX等で発表文が自動送信され、着信確認、市町村への避難指示等の対応のお願い等を本番さながらの緊張感を持って行いました。

## 「全国治水砂防協会通常総会」が開催される

令和6年5月23日（木）、砂防会館別館シェーンバツハ・サポー「利根」において、78名の衆・参両院の国会議員並びに全国の市町村長など、全体で1,000名超の方々のご出席により「全国治水砂防協会令和6年度通常総会（第88回）」が開催されました。堂故国土交通副大臣、富山県からも夏野砺波市長、中川上市町長、舟橋立山町長、富山市沼崎建設部次長及び富山県議会砂防事業促進議員連盟理事・事務局長の安達県議会議員の5名の会員及び賛助会員が出席しました。



総会では、森山会長の挨拶、斉藤国土交通大臣からの祝辞のあと、議事に入り、令和5年度事業報告・収支決算審議、令和6年度事業計画報告・収支予算報告及び役員選任等審議案件については原案どおり満場一致で承認されました。

また、総会開会前には、元気象庁長官 西出則武全国治水砂防協会理事による「地震津波の警報等について- 令和6年能登半島地震を事例として-」と題した特別講演がありました。

## 砂防学会研究発表会、国際防災学会インタープリバント2024ウィーンにおける立山砂防のPR

「立山砂防」の世界文化遺産登録に向けた取組について、令和6年5月15日に、和歌山県和歌山市で開催された第73回砂防学会研究発表会に参加して口頭発表を行いました。また、6月10日から14日にかけて、国際防災学会インタープリバント2024ウィーンに参加しました。今回は25の国と地域から520名が参加し、立山砂防の価値についてインタープリバント幹部や研究者・専門家に、ポスター発表やVR動画等を用いて直接説明することができ、大変有意義な機会となりました。特に、白岩砂防堰堤の空撮によるVR動画への関心が高く、多くの参加者に体験して頂きました。

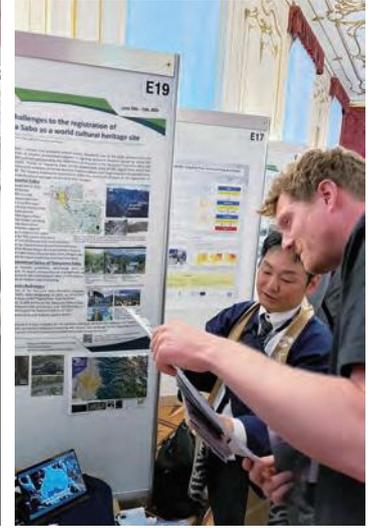
その後の政府間会議「日本オーストリア砂防技術会議」にも参画し、日本の近代砂防技術の源流であるオーストリアの行政官、研究者に向けて、立山砂防が日本とオーストリアの砂防技術の融合であることを説明し、その認識を両国間で共有することができました。



砂防学会研究発表会での発表



VR動画を用いた説明



インタープリバントでのポスター発表の状況

## 「土砂災害防止「全国の集い」 in 広島」が開催！

令和6年6月6日（木）、広島文化学園HBGホール（広島県広島市）において、「繰り返される土砂災害との闘い～土砂災害の歴史や社会情勢の変化を踏まえた今後の取り組みを考える～」の開催テーマのもと、令和6年度（第42回）土砂災害防止「全国の集い」が開催されました。

会場では、ポスター展示『全国からの土砂災害対策 事例報告』が行われ、富山県からも「立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組」について展示しました。集いでは、土砂災害防止功労者表彰式、国土交通省砂防部による報告、作家の稲田幸久氏による特別講演及びパネルディスカッションが催されました。

また、連携行事として令和6年度砂防ボランティア「全国のつどい」が開催され、富山県からは川原恭明氏（富山県砂防ボランティア協会）及び松本清則氏（立山・神通砂防スペシャルエンジニア）が砂防ボランティア活動等功労者表彰を受けられました。

翌日7日（金）には現地研修会が行われ、紅葉谷川庭園砂防施設、平成26年8.20広島土砂災害の現場とその後の砂防施設の整備及び広島市豪雨災害伝承館等を視察しました。砂防施設の整備の現場は崩れやすいマサ土の地質で山裾まで宅地開発が進展しているため、土砂災害の被害を受けやすい場所ですが、約34,000㎡の土砂を貯められる砂防堰堤及び土石流堆積工が整備されており、再度災害を防止する想いが強く感じられました。

なお、来年度の土砂災害防止「全国の集い」は宮城県で開催される予定です。



開会式典



ポスター展示



平成26年8.20広島土砂災害現場（八木・緑井地区）と砂防施設の整備



砂防ボランティア活動等功労者表彰



パネルディスカッション

# 富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については博物館までお電話ください。 TEL. 076-481-1363 (学芸課)

## ■今後の企画展・特別展のご案内 (観覧料：無料)

### ◆企画展「日本三霊山-自然と砂防-」

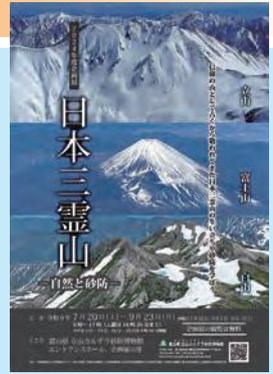
開催期間：7月20日(土)～9月23日(月・振替休日)

日本三霊山である立山、富士山、白山は信仰の山として古くから多くの人々に敬われてきました。三霊山はいずれも火山で巨大崩壊地を有し、山頂に住む人々の暮らしを土砂災害から守るための砂防事業が行われているなどの共通点があります。三霊山の自然や砂防について、自然を真似る実験や映像で紹介します。

### ◆特別展「立山さんろく 自然の魅力」

開催期間：10月5日(土)～12月15日(日)

山岳観光地の立山は、山麓部の自然もまた豊かです。あまり知られていない自然観察場所とその魅力を紹介します。(富山市科学博物館共同展示)



企画展「日本三霊山-自然と砂防-」

## ■野外体験イベントのご案内

### ◆立山カルデラ砂防体験学習会

開催日：7月3日～10月11日 水・木・金(全40回) 定員：各回 28名～40名 ※要事前申込

普段立ち入ることができない立山カルデラを訪ね自然や歴史、砂防について体感します。

詳しくは博物館のホームページから、もしくは「応募のてびき」の申込み専用はがきにてお申込みください。

小学3年以上(小・中学生は保護者同伴)

問い合わせ：TEL 076-481-1363 (学芸課)

※落石等による被害による影響で、今年度はトロッココース(水・木曜日)の募集を中止しています。(バスコース(金曜)は実施します。)

### ◆フィールドウォッチング

学芸員の解説で立山の自然や歴史、砂防について現地では感してみませんか?

小学3年以上(小・中学生は保護者同伴)

「立山の氷河眺望」 8月24日(土)

「室堂山とカルデラ展望」 9月1日(日)

「弥陀ヶ原とカルデラ展望」 10月6日(日)

「秋の有峰と常願寺川砂防治水探訪」 10月18日(金)

問い合わせ・申し込み：

一般社団法人 地域・観光マネジメントまで電話にてお申し込みください

TEL 076-471-6103 (先着順)

受付開始日はコースによって異なります。

HP「北陸探訪」や電話にてご確認ください。

HP「北陸探訪」→



室堂山とカルデラ



弥陀ヶ原とカルデラ展望

## 立山カルデラ 砂防博物館の 開館案内

開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)。\*夏休み期間7/20～8/31、9月10月の連休は9:00開館

休館日：月曜日(祝日除く) 祝日の翌日(土・日曜日除く)、年末・年始(12/28～1/4)

観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円(70歳以上無料、年齢の確認できるものを持参ください)、  
大学生以下無料、企画展示室・SABO展示室は無料

所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峠寺字ブナ坂68

TEL 076-481-1160/FAX 076-482-9100/ホームページ <http://www.tatecal.or.jp/>

## 富山県の石

砂防会館の赤木正雄の銅像の台座の前には47都道府県の石と生地兵庫県豊岡の石が地図状に埋め込まれています。備忘録ですが、富山県の石は「常願寺川の石、立山火山カルデラからの溶岩塊の一部、復輝石安山岩～石英安山岩 火山活動や風化作用により変質作用を受け茶褐色を呈している。一部に石英脈を介在。」(砂防と治水第206号)です。



## 岐阜県知事への立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取組の説明

7/5(金)岐阜県・富山県知事懇談会において、古田岐阜県知事に県庁防災危機管理センター1階の展示「防災と立山砂防」を視察頂きました。立山砂防の世界文化遺産登録への取組の説明をお聞き頂くとともに、白岩堰堤のVR動画を視聴頂きました。古田知事からは立山砂防の文化的な価値やヨハネス・デ・レイケと常願寺川の治水の関わり等についてご質問がありました。

